

トレンド 語り

あらゆる商品を包んで彩る「包装フィルム」。パッケージ命の時代、商品の顔となる大事な素材である。印刷業界、とくに軟包装フィルムと呼ばれる分野が大きく変わりつつある。お菓子袋一つとってもデザイン、形状、大きさも様々、消費者の好みにあわせて商

中村 泰子

品のパッケージもより細分化し、市場の要求にタイムリーに対応しなければならぬ。そんな多品種小ロットの印刷ニーズをこなすのがシンクラボラトリー(千葉県柏市)の水性インクジェットプリンター「FXI J」II写真。シンク社はもともと、大量・高速印刷に適したレ

水性インクジェットプリンター

多品種小ロット逃さず



新製品

ザーグラフィア製版システムのトップメーカー。デザインごとに準備に時間がかかるグラフィアでの小ロット印刷は効率が悪い。中小メーカーの商品包材など、量が少ないと、印刷会社で後回しにされ、印刷できる最小ロットでも材料に無駄が出てしまつた。

社側の双方の悩みが開発に繋がった。FXI Jの投入により、ロットの小さな商品サンプルや地域・期間限定品、中小企業や個人商店のオリジナル包材はFXI Jで、大量の印刷は従来グラフィアというすみ分けが可能になった。同機は、花王と共同開発した水性インクや自社開発の水性インクを使用して、フィルムにデザインを直接印刷し、熱風乾燥を経て巻き取り品に仕上げる。デザインデータの編集から出力まで、タッチパネル操作で簡単にこなせる。印刷速度は毎分40頁、幅は約1頁。シンク社の重田龍男社長は「アイデアは無限にある」と語る。新元号関連の記念商品やラクビーワールドカップ、東京オリンピックなどインバウンド需要で期間限定の外国語表記のデザイン包材も想定される。(フームプランニング社長)